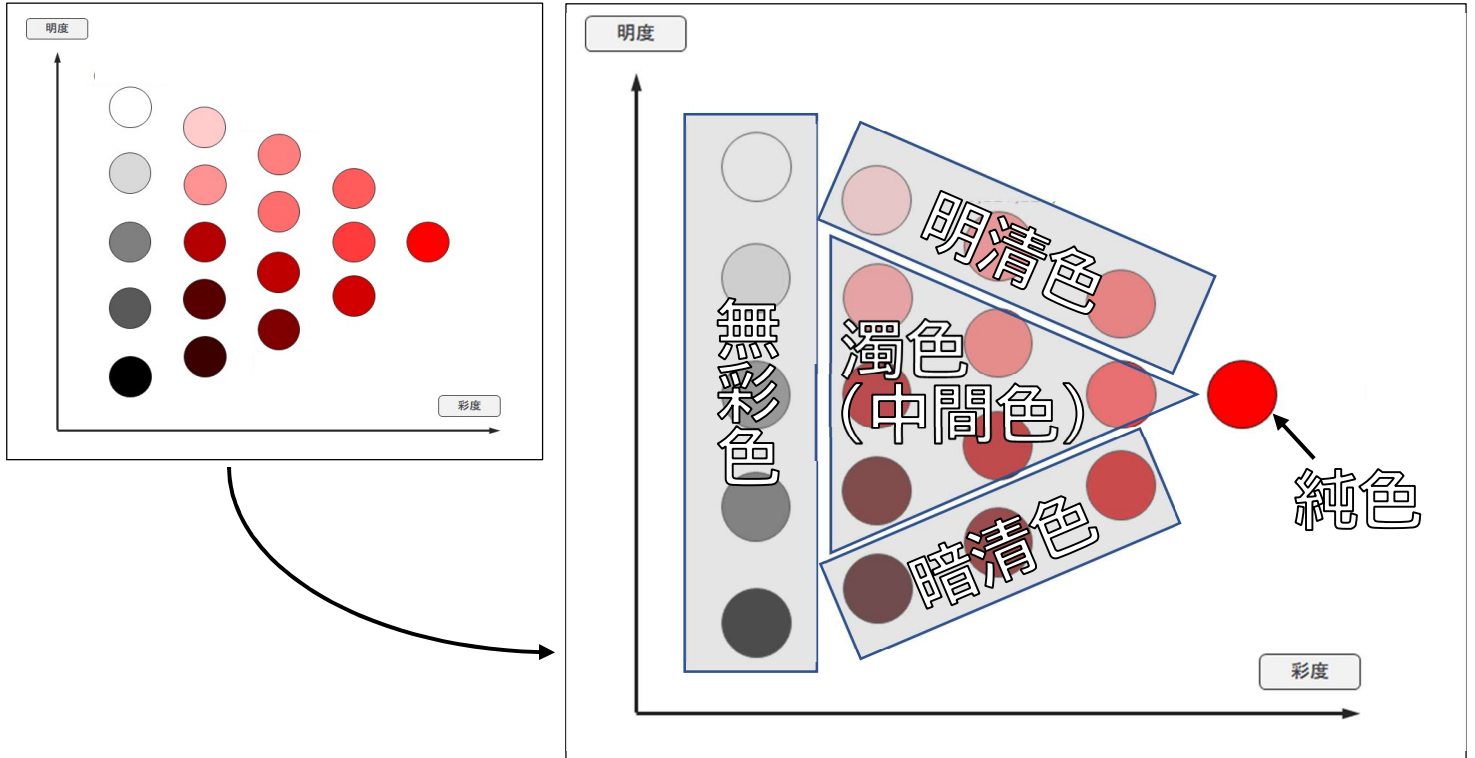
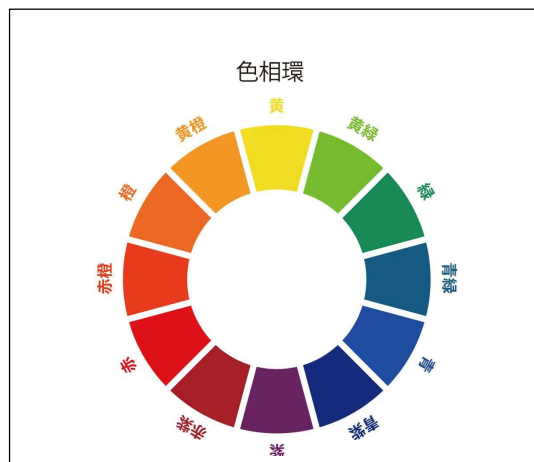


【色のでき方】

- どんな色を混ぜても作ることができない色を^{さんげんしよく}三原色という。三原色にはテレビやディスプレイなどの光(^{しきこう}色光)の三原色と、絵の具や印刷インクなど(^{しきりよう}色料)の三原色がある。
- 色光の三原色はレッド、グリーン、ブルーで、それぞれの英語の頭文字をとって RGB(Red, Green, Blue)ともいう。
また、色光は重ねるほど白くなっていく。この現象を、^{かほうこんしよく}加法混色という。
- 色料の三原色はマゼンタ、イエロー、シアンで、それぞれの英語の頭文字をとって CMY(Cyan, Magenta, Yellow)ともいう。
また、色料は重ねるほど白くなっていく。この現象を、^{げんほうこんしよく}減法混色という。
- 色には、^{しきそう}色相(色合い)、^{めいど}明度(明るさ)、^{さいど}彩度(鮮やかさ)の3つの性質があり、これを^{いろのさんざう}色の三要素という。
- 彩度の低い色(黒、灰色、白のみ)を^{むさいしよく}無彩色といい、それ以外を^{ゆうさいしよく}有彩色という。また、各色相の中でもっとも彩度の高い色を^{じゆんしよく}純色、純色に白を混ぜた色を^{めいせいしよく}明清色、純色に黒を混ぜた色を^{あんせいしよく}暗清色、純色に灰色を混ぜた色を^{だくしよく}濁色(中間色)という。



- 色相の違う色つくる輪のことを^{いろさくわん}色相環という。色相環で互いに向き合っている色は^{ほしょく}補色である。
- 同じ色でも、周囲の色によって違った感じに見えることがある。この現象を、^{しきさくたいひ}色彩対比という。



- ・^{めいどたいひ}明度対比: 同じ明度の色も、暗い背景の上では明るく、明るい背景の中では暗く感じて見える。
- ・^{しきさくたいひ}色相対比: 同じ色相の色も、背景の色相の違いで、色相の感じが違って見える。
- ・^{さいどたいひ}彩度対比: 同じ彩度の色も、低い彩度の背景の中では鮮やかさを増し、高い彩度の中ではにぶく見える。